

あべのハルカス美術館 2026年7月～2027年7月 展覧会ラインアップ

会期	2026年7月4日(土) ～ 2026年9月9日(水)	2026年10月3日(土) ～ 2026年12月6日(日)	2026年12月26日(土) ～ 2027年3月7日(日)	2027年3月20日(土) ～ 2027年5月9日(日)	2027年5月22日(土) ～ 2027年7月19日(月・祝)
展覧会名	ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルツ美術館所蔵	アンドリュウ・ワイエス展	ルーシー・リー展 ー東西をつなぐ優美のうつわー	エリック・カール展 はじまりは、はらべこあおむし	HOKUSAI ー北斎が「北斎」だった時代ー

【詳細】

ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルツ美術館所蔵

会 期：2026年7月4日(土)～2026年9月9日(水)
 共 催：産経新聞社、関西テレビ放送
 後 援：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
 協 賛：タケモトピアノ
 協 力：ヤマト運輸
 企画協力：クオラス
 開催趣旨：ドイツ、ケルン市のヴァルラフ＝リヒャルツ美術館・コルプー財団が所蔵する豊かなコレクションから、モネ、ルノワール、ピサロほか印象派をめぐる42名の巨匠たちの作品70点を紹介します。とりわけ、印象派以降の流れのなかでも際立つ存在であるゴッホの《跳ね橋》が本展の見どころの一つです。



フィンセント・ファン・ゴッホ《跳ね橋》1888年 油彩、カンヴァス
 Vincent van Gogh, The Drawbridge, 1888, Oil on canvas



エドゥアール・マネ《アスパラガスの束》1880年 油彩、カンヴァス
 Édouard Manet, A Bundle of Asparagus, 1880, Oil on canvas

作品はすべてヴァルラフ＝リヒャルツ美術館・コルプー財団蔵
 Wallraf-Richartz-Museum & Fondation Corboud, Cologne
 Photos: © RBA, Cologne

本展覧会は、ドイツ連邦共和国ケルン市のヴァルラフ＝リヒャルツ美術館・コルプー財団の協力のもとに開催されています。

アンドリュー・ワイエス展

会 期：2026年10月3日（土）～2026年12月6日（日）

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

協 賛：DNP大日本印刷

特 別 協 力：丸沼芸術の森、ユニマットグループ

協 力：ワイエス財団、日本航空

後 援：アメリカ大使館

開 催 趣 旨：アメリカの風景や人々を、深い精神性を宿したリアリズムによって描いたアンドリュー・ワイエス（1917-2009）。日本では没後初、17年ぶりの回顧展となる本展では、その作品に数多く登場する窓や扉といった「境界」を暗示する表現に光を当てます。内と外、自己と他者、生と死など、さまざまな「境界」をつなぐワイエスの絵画は、世界の分断が進むいまの時代に、静かな希望をもたらしてくれることでしょう。



《クリスティーナ・オルソン》1947年

テンペラ、パネル マイロン・クニン・コレクション、ミネアポリス

Myron Kunin Collection of American Art, Minneapolis, MN photo: Curtis Galleries, Inc.

© 2026 Wyeth Foundation for American Art / ARS, New York / JASPAR, Tokyo



《ヒトデ》1986年 水彩、紙 フィルブルック美術館、タルサ

Philbrook Museum of Art, Tulsa, Oklahoma. Bequest of Marylouise Cowan, 2010.9.14.

©2026 Wyeth Foundation for American Art / ARS, New York / JASPAR, Tokyo

ルーシー・リー展 —東西をつなぐ優美のうつわ—

会 期：2026年12月26日（土）～2027年3月7日（日）

共 催：朝日新聞社、朝日放送テレビ

企 画 協 力：国立工芸館

特 別 協 力：井内コレクション、京都国立近代美術館

協 賛：DNP大日本印刷

開 催 趣 旨：20世紀を代表する陶芸家ルーシー・リー（1902-1995）は、ウィーン工芸美術学校で^{ろうくろ}轆轤と出会い陶芸の道へと進みます。それ以来、彼女の尽きない探究心から生まれた優美なたちと豊かな色彩表現は、ウィーンからロンドンに渡り活動続けるなかで洗練を極め、新しい造形世界を人々に提示しました。本展は、今もなお私たちを魅了してやまない彼女の作陶の軌跡を、それぞれの地で出会った人やもの、さらに東洋との関わりを交えながら紐解きます。



ルーシー・リー《ブロンズ釉花器》1980年頃

井内コレクション(国立工芸館寄託)

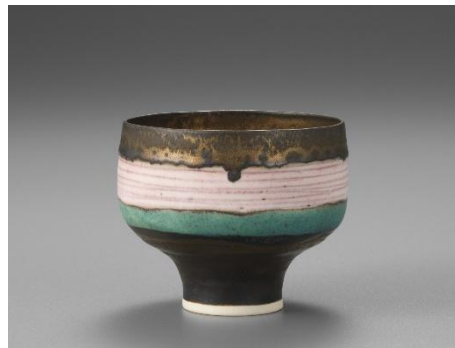
撮影：品野壘



ルーシー・リー《青釉鉢》1978年

国立工芸館蔵

撮影：アローアートワークス



ルーシー・リー《ピンク象嵌小鉢》1975-79年頃

国立工芸館蔵

撮影：エス・アンド・ティ フォト

エリック・カール展 はじまりは、はらぺこあおむし」

会 期：2027年3月20日（土）～ 2027年5月9日（日）
共 催：エリック・カール絵本美術館、読売新聞社、読売テレビ
協 力：日本航空、偕成社、コスモマーチャンダイズィング
開 催 趣 旨：本展はアメリカを代表する絵本作家エリック・カール（1929-2021）の回顧展です。ページごとに紙のサイズが変わり、あおむしの食べた跡が穴で表現されている絵本『はらぺこあおむし』は、現在でも世界中のこども達に愛されています。本展は『はらぺこあおむし』日本語版50周年を記念して、米国・マサチューセッツ州にあるエリック・カール絵本美術館の全面協力により開催いたします。
『はらぺこあおむし』（1969年）や『パパ、お月さまとって！』（1986年）、『10このちいさなおもちゃのあひる』（2005年）など27冊の絵本の原画にあわせ、グラフィックデザイナー時代の作品、アイディアの最初の構想段階で作られるダミーブック、コラージュに使用する素材（色や模様をつけた紙）など、約180点を展示します。原画の色鮮やかさ、デザイナーとしての造本の工夫、そして絵本に込めたこども達への優しいまなざしを体験いただければ幸いです。



エリック・カール『はらぺこあおむし』1987年版 表紙
1987年、エリック・カール絵本美術館
Collection of the Eric and Barbara Carle Foundation.
© 1969,1987 Penguin Random House LLC.



エリック・カール『パパ、お月さまとって！』
1986年、エリック・カール絵本美術館
Collection of the Eric and Barbara Carle
Foundation. © 1986 Penguin Random House LLC.



エリック・カール
フレームをもったあおむし（エリック・カール絵本美術館
開館時の寄付を募るPRポスター）
2002年、エリック・カール絵本美術館
Collection of the Eric and Barbara Carle Foundation.
© 2002 Penguin Random House LLC.

あべのハルカス美術館

【開館時間】

火～金：10:00 - 20:00
土日祝：10:00 - 18:00
＊入館は閉館30分前まで

【休館日】

一部の月曜日、年末年始
展示替え期間（不定期）
＊展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅
JR各線「天王寺」駅
Osaka Metro御堂筋線「天王寺」駅
Osaka Metro谷町線「天王寺」駅
阪堺上町線「天王寺駅前」駅

【アクセス】

